

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「光復 80 年」

～ 一人ひとりが平和の器として ～

### 管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」(マルコ 9:50)

復活日に主教会から「戦後80年」に当たってのメッセージが送られました。1945年の日本の敗戦によってアジア・太平洋戦争が終結してから80年を迎えます。日本にとっては敗戦(終戦)ですが、お隣の韓国では8月15日は光復節(クワンボッチョル)という祝日で、日本による植民地支配から解放された記念日となっています。同様に日本が武力によって支配していたアジア諸国にとっても解放されてから80年ということになります。

主教会メッセージの中でも「日本が侵略した国々との和解と平和が未だに実現していないことを、わたしたちは反省と痛みをもって覚えます。」と記されています。1995年の「日本聖公会宣教協議会」、翌1996年の日本聖公会第49(定期)総会を経て決議された「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」は重要な宣教の指針です。

今年3月には京都教区の中高生たちがソウルを訪問し、8月初旬には横浜教区が済州での日韓青少年交流プログラムを、同月末には西マレーシアでアジア青年大会が開催される予定になっています。教科書では教えられない歴史を学び、実際に人と出会うことによって和解と平和の道を私たちは歩んでいきます。私自身、高校生の頃に沖縄で経験した出会いと学びが、現在の働きの原点となっています。

4月の主教会メッセージには始まり、5月には憲法プロジェクト主催の「いのちをみつめる祈りの集い」(5/30講師:吉高叶さん・NCC議長)、6月の原発のない世界を求める講演会(6/14講師:家島さん・日本被団協代表理事)、6/23の「沖縄慰霊の日」と、それらを受けての沖縄週間/沖縄の旅、8/6広島平和礼拝、8/9長崎原爆記念礼拝、8/15日韓協働の8.15平和メッセージなどが予定されています。正義と平和委員会では、「戦後80年～神と人々

## 口会議・プログラム等予定

(2025年5月25日以降・前回未掲載分)

### 5月

31日(土) いのちをみつめる祈りの集い [Web]

### 6月

2日(月) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [沖縄教区センター+Web]

3日(火) 法憲法規委員会 [管区事務所+Web]

3日(火) 第69(臨時)総会書記局会議 [管区事務所+Web]

10日(火) 聖公会神学院参与会 [ナザレの家]

10日(火) ～12日(木) 主教会 [ナザレの家]

12日(木) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議 [Web]

14日(土) 原発のない世界を求める講演会 [東京/聖アンデレ+Web]

17日(火) ～18日(水) 日本聖公会婦人会総会 [横浜聖アンデレ教会]

20日(金) ～22日(日) 沖縄週間/沖縄の旅 [沖縄]

23日(月) 主事会議 [管区事務所]

27日(金) ナザレ委員会 [管区事務所]

### 7月

3日(木) 財政主査会 [管区事務所]

3日(木) 神学教理委員会 [管区事務所]

4日(金) 臨時主教会 [ソラリア西鉄ホテル福岡]

5日(土) 九州教区主教接手・就任式 [九州教区主教座聖堂]

8日(火) 正義と平和委員会 [Web]

9日(水) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]

10日(木) 常議員会 [管区事務所]

11日(金) セーフチャーチ・ガイドライン TT会議 [管区事務所]

23日(水) 金融資産運用管理チーム会議 [管区事務所]

(次頁へ続く)

と世界の声に耳を傾け、平和をつくりだそう!」を共通テーマとして、各プロジェクトが80年を意識した取り組みを進めます。

私たち一人ひとりが平和の器として、それぞれの場から祈りと行動の波を広げていければと願います。まずは「主の平和」を身の回りから実践していくことでしょうか。悲しみと憎しみの連鎖ではなく、信頼と和解と希望が満ちる世界であり得ますようにと祈り続けたいと思います。



## □常議員会

第 68 (定期) 総会期第 5 回 2025 年 5 月 13 日 (火)

<主な決議事項>

1. ナザレの家のウエハース製作機械の修理に関して、現存機械の故障部品のみでの修繕で 72 万円 (ブリストホーストの機械 56.2 万円、ピープルの機械 15.8 万円) の支出を承認。
2. 管区一般会計資金勘定の整理に関して、それぞれの資金の設置経緯や収支内容などを確認して協議した。方向性について承認し、それぞれの規程の整備も含め引き続き財政主査会や主事会議で検討を重ねていくこととした。
3. 管区諸委員の増員に関して、青年委員会に野村佳織さん (京都)、山本紗規子さん (京都) の就任を承認。
4. 第 69 (臨時) 総会に関して、9 月 17 日 (水) 管区事務所と各教区を会場とし Zoom にて開催することを承認。各会場で聖餐式を行わない 19 時 30 分から議事開始とする。議案は「日本聖公会京都教区が伝道教区となることの承認」と「日本聖公会京都教区規則の変更」を予定。

次回会議: 7 月 10 日、10 月 23 日、12 月 4 日

(前頁より)

### <関係諸団体会議・他>

- 6 月 2 日 (月) JCK キープ日本後援会 (立教)
- 25 日 (水) 日本キリスト教連合会常任委員会 (Web)
- 27 日 (金) USPG セーフチャーチに関する対話 (Web)
- 7 月 17 日 (木) NCC 常議員会 (Web)
- 23 日 (水) ~ 25 日 (金) 聖公会保育連盟全国保育者大会 (沖縄)

## □各教区

### 京都

- 2025 年 4 月 26 日 (土) 京都教区第 122 (臨時) 教区会 議案: 日本聖公会京都教区が伝道教区となることの承認を求める件: 賛成多数で可決
- 2025 年 4 月 26 日 (土) 京都教区第 123 (臨時) 教区会 開催中止 (京都教区第 122 (臨時) 教区会 議案可決のため)

## □管区

- 2025 年 3 月 29 日 (土) 神戸教区第 95 (臨時) 教区会で教区主教に選出された司祭 さとし バジル 八代 智 師 (神戸教区) は各教区主教の同意の後に教区主教への就任を受諾し、2025 年 5 月 19 日付で主教被選者となった。



† 逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

アンデレ 谷 市三 (元伝道師 / 京都) 2025 年 5 月 4 日 (日) 逝去 (85 歳)

公 示

日本聖公会第69(臨時)総会を下記のように招集いたします。

救主降生 2025年5月20日  
日本聖公会 総会議長  
主教 ダビデ 上原 榮正<sup>Ⓔ</sup>

記

第69(臨時)総会

日 時 : 2025年9月17日(水) 18時から21時まで

(19時半から議事開始)

場 所 : 日本聖公会管区事務所 他(オンライン開催)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町65 他 各教区

議 案 : 日本聖公会京都教区が伝道教区となることを承認する件、  
宗教法人「日本聖公会京都教区」規則変更を承認する件

以上

第69(臨時)総会書記局

書記長

司祭 松田 浩(横浜)

書記

司祭 大山 洋平(北関東)

司祭 姜 暁俊(横浜)

執事 岸本 望(北関東)

執事 福永 澄(東京)

執事 藤田 美土里(東京)

《人事》

北関東

司祭 ルカ平岡康弘

2025年5月31日付 願いにより、退職を認める。

宇都宮聖ヨハネ教会牧師および日光真光教会  
管理牧師の任を解く。

司祭 パウロ鈴木伸明

2025年6月1日付

宇都宮聖ヨハネ教会管理牧師および日光真光  
教会管理牧師に任命する。

東京

主教 アンデレ大畑喜道

2025年3月19日付

滝乃川学園聖三一礼拝堂チャプレンに任命す  
る。

聖職候補生 岡 フランセス

2025年5月17日

公会の執事に按手される。

横浜

<信徒奉事者認可>

2025年4月8日付(任期1年)

(千葉復活教会)

ペテロ永井直行、ステパノ小林正直

## 「2025春 J's キャンプ@ソウル」を終えて

- 3月26日～31日：韓国・ソウル -

京都教区宣教局教育部 J's 部門 司祭 アンデレ 松山健作

3月26日(水)から31日(月)まで京都教区教育部 J's 部門の企画でソウルの旅を実施しました。管区平和宣教教育活動資金の補助をいただき、実施できましたことを感謝申し上げます。参加者は中高生5名(1名欠席)、大学生3名、スタッフ3名(1名中部教区からの協力委員、1名中部教区の現地教役者)の総勢10名でした。また大韓聖公会ソウル教区青年連合会から7名が部分参加してくださり、楽しく日韓交流を実施することができました。

まずソウル主教座聖堂や聖架修道院の位置する貞洞を訪れました。貞洞は、ソウルの中心部に位置し、近代プロテスタント宣教師たちのステーションでした。朝鮮の鎖国が日本に

よって強制的に開国される中で、宣教師たちがどのように上陸し、定着し、宣教活動を行なったかについて学びました。また朝鮮と日本の葛藤をめぐる近現代史とキリスト教の関係についても知ることができました。日本の参加者においては、日本が植民地化した朝鮮という歴史的現場を被植民地側の視点から学ぶ機会ともなりました。

そして「戦争と女性の人権博物館」に訪れ、従軍慰安婦の事柄についても学びました。戦時下で起きた国家主導の性暴力の実情は、参加者にとって衝撃的な事実でした。けれども、戦争という恐ろしい状況の中で脅かされる「性・生・命」について日韓の若い世代と一緒に学ぶことで平和の重要性について考えるひとときとなりました。



貞洞の救世軍士官学校



「戦争と女性の人権博物館」

また現地教会の訪問や交流という意味では、ソウル主教座聖堂の早朝聖餐式や主日には水原教会の聖餐式に参加させていただきました。一教会に3名の司祭が勤務していることや200名近くの信徒さんが主日礼拝に参列していることなど、日本の教会事情とはまた異なる状況に関心を寄せている参加者の姿がありました。

以下に中高生参加者の生の声をご紹介します。今後とも日韓交流がそれぞれの教区、教会の中で盛んになり平和を築く力になりますようにとお祈りしております。



水原の漢城

## 「2025 春 J's キャンプ@ソウル」 に参加して

京都復活教会 中学2年生 野田 汎

僕は、今回のJ'sキャンプで日韓の平和について学びました。僕はこの事を学んで、「楽しく仲良く平和に過ごせる世の中になりたい」と思いました。

続いて楽しかったことです。楽しいと思ったことは、まずは明洞へ行ったことです。いろいろな店や屋台があつて、とてもにぎやかでした。屋台ではおでんと白あんが入ったドーナツを食べました。おでんは、魚の練り物が串に刺さっているものですが、日本のおでんとは少し違っていました。汁がとても染みっていてとてもおいしかったです。白あん入りのドーナツは、砂糖の粒がまわりについて、とても甘かったです。他にも、カフェに行ってマンゴースムージーを飲みました。

また、ソウルツアーも面白かったです。明洞大聖堂に行ったり、キリスト教系の大学（梨花女子大学校、延世大学校）に行ったり、戦争と女性の人権博物館に行ったりしました。どの場所でもいろいろな事を学べて良かったです。

一番おいしかった食べ物は、キンパとサムギョプサルとジャージャー麺です。キンパはゴマ油の味がして、チーズやニンジンやゴボウやツナマヨが入っていてとてもおいしかったです。サムギョプサルは、肉をいっぱい焼いてゴマ油をつけてご飯と一緒に食べました。ジャージャー麺は、玉ねぎなどがはいった汁を麺と一緒に混ぜて食べました。どれもおいしかったです。



延世大学校



梨花高等学校

## 「戦争と女性の博物館へ行って」

奈良基督教会 中学2年生 山口愛華

私たちは韓国の「戦争と女性の人権博物館」というところに行ってきました。そこは二階建てと地下で構成されていて、他の博物館と比べればとても小さい建物でしたが、中の内容は他のどの博物館よりも重く、考えさせられるものでし

た。初めの展示は地下の暗い場所でした。そこではとても辛そうにしている被害者たちの顔が次々と現れていき、だんだんと笑顔の顔が現れるというビデオが流れていました。なぜ辛そうな顔をしているのかと、なぜそれがだんだんと笑顔になっていくのかが、私はその時はわかりませんでした。

次の展示は二階でそこには日本軍が犯した罪とそのデモ、もうその出来事が二度と起こらないように訴えた様子などが詳しく説明されていました。日本軍は戦争中に韓国の女性たちに暴力を加えたりしていて、「なんでそんなことをしたんだよ」って怒りまじりの疑問を抱きました。

でも、私も日本人なので「韓国の人たちにひどい事をした」という事実が心の奥にズーンと響きました。でも、水曜デモと呼ばれる運動をして、歴史に埋もれないように活動する勇気と、こうして博物館をつくり、後世に伝えていく人たちが「二度と繰り返さないように」と願う気持ちがすぐく伝わりました。歴史の教科書などでは習わなかったけれど、こうやって知ることができて良かったです。

### 「2025春J's キャンプ@ソウル」 に参加して

福井聖三一教会 高校2年生 吉村東馬

僕はこのキャンプで、とても学びの多い貴重な時間を過ごすことができました。

今回のキャンプでは、いつも以上に現地の人との交流の多いキャンプだったように思います。交流することでしか学ぶことが出来ないことがたくさんありました。韓国へ行く前、日本のあるテレビで「韓国の人には、日本人に対して良いイメージを持っていない。」という事を言っていて、少し不安な気持ちで韓国へ来ました。しかし、実

際現地の人と交流していく上で、会う人みんなが親切に接してくださり、不安はすぐに解消されました。テレビの情報を鵜呑みにしてしまっていた事を反省しました。

また、交流する中で最も印象的だったのが、「日本の政治家は、韓国で戦争が起きれば戦争特需で日本の景気が良くなるので、韓国が戦争することを望んでいる。」というものでした。これに関する詳細や正確性は僕にはわかりませんが、このような情報が、ニュースになっているということを知って驚きました。日韓関係を考える上で、テレビ等のメディアの情報に頼るのではなく、実際に交流することがこれほどにも大切なんだと思いました。

今も世界中で戦争が起こる中で、今回のキャンプを通して平和に必要なものは何か、それについて考え、学ぶことができました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

### 「充実した5泊6日間」

京都復活教会 高校3年生 野田彰子

今回のJ'sキャンプもとても充実したものとなりました。平和学習とソウルツアーでは、日韓の歴史や韓国の文化や、現在はどんな問題があるのか、韓国でキリスト教がどのような形で広まっていたのか、キリスト教系の大学や主教座聖



水原教会訪問

堂がなぜ建てられたのかを沢山知ることができました。

ソウル教区青年会との交流と水原教会訪問では、最初は緊張と不安でいっぱいでしたが、身振り手振りを使ってコミュニケーションをとったり、共通の趣味を見つけたり、活動を共にしたりしながら、関係を深めることが出来たのでよかったです。

また明洞で散策をしたり、韓国料理を食べたり、お土産を買ったりするなど、観光を満喫することもできました。「まだ帰りたくない」と思うぐらい楽しく、様々なことを学び様々な経験をすることが出来た5泊6日間になり、そして大きな事故もなく無事に過ごせたので嬉しい気持ちでいっぱいです。

このキャンプで学んだことや考えたこと、韓国の友人との交わりを大切にして、これからの教会生活を過ごしていきたいです。来年で春J'sキャンプに参加するのは最後になってしまいますが有意義な時間になるようにそして沢山の思い出を作れるようにしたいと思います。



水原での交流会



ソウル大聖堂での集合写真

## 世界の聖公会の動向

☆次期カンタベリー大主教に関する協議を継続  
☆アングリカン・コミュニオン総主事が、教皇レオ14世の選出について  
声明を発表  
☆米国聖公会主催の無料講座がフード・スチュワードシップに貢献

管区事務所渉外主事 司祭 ポール・トルハースト

### ○次期カンタベリー大主教に関する協議を継続

今年2月から3月にかけて、オンライン・郵送・対面で実施された次期カンタベリー大主教に関する協議には、11,000人以上が参加した。

この協議は、教会内のリーダーシップの将来に影響を与えるまたとない機会であり、現在および未来の教会のニーズに応えるために、第106代カンタベリー大主教に求められる賜物、スキル、資質を見極める一助となった。

この協議を通じて浮かび上がったテーマは、カンタベリー教区が作成した「ニーズに関する声明」や、英国聖公会およびアングリカン・コミュニオンから提供されたその他の情報と並行して検討される予定である。カンタベリー王室指名委員会の中で、英国聖公会および聖公会全体の宣教におけるニーズを伝える情報として活用される。

**協**議には、他の伝統的なキリスト教派や非キリスト教派の代表者、国会議員、公職指導者、英国聖公会およびアングリカン・コミュニオンの教役者、奉仕者、礼拝に携わる人びと、そして1,200人以上の子どもたちや若者たちとの会合も含まれている。

### ○アングリカン・コミュニオン総主事が、教皇レオ14世の選出について声明を発表

アングリカン・コミュニオンのアンソニー・ポゴ総主事は5月8日、教皇レオ14世の選出に伴い祝福のメッセージを発表した。

☆声明文：

私たちは大きな喜びをもって、第267代教皇でありローマ司教である教皇レオ14世の選出と任命を歓迎します。

世界中の聖公会の代表として、私たちは教皇が教会奉仕を世界的な使命をもって遂行されるにあたり、祈りと祝福と励ましを分かち合います。

信仰と洞察力と勇気により、キリスト教の平和と正義の価値観が体現化された宣教と伝道へ導かれますように願います。

史上この時点で、世界と教会は大きな課題に直面しています。多数の移民、戦争、貧困、分断の危機が私たち全員に重くのしかかっています。これまでと同様、私たちの社会で最も罪のない弱い立場にある人々が、最も深刻な苦しみを味わっています。

私たちは、対話を通じて架け橋を築くという教皇レオ14世の決意と、そしてすべての信者に対して恐れることなく目に見える団結を求める呼びかけを歓迎します。

**聖**公会は、私たちの公式なエキュメニカル組織とローマに駐在する聖公会センターの先駆的な働きによって支えられながら、イエスの友愛のためカトリック教会と協力することに引き続き尽力します。

聖公会-ローマ・カトリック教会国際委員会 (ARCIC) および、聖公会-ローマ・カトリック教会一致と宣教に関する国際委員会 (IARCCUM) は、私たちが共に考え、共に成長することを助けてく

れます。聖公会とローマ・カトリックは、聖アウグスティヌスのキリストによるすべての体、「愛の共同体」への呼びかけの精神に基づき、これらの委員会、そしてそれらが育む友情に期待を寄せています。

私たちは、神が教皇レオ14世に賢明な導きの力を与えてくださるよう祈り、私たちも喜んで手を差し伸べることをお約束します。主が私たちのもとに来られ、恐れるなど命じてくださるとき(ヨハネ6:20)、再び共に主に見えますように。

アーメン

### ○米国聖公会主催の無料講座がフード・スチュワードシップに貢献

カリフォルニア州グリッドリーにある聖テモテ・エピスコパル教会では、食べ物を決して無駄にしない取り組みがなされている。すぐに食べられたり堆肥にされなかったりしたものはすべて保存することができる。教会員らのチームにとっては、これは楽しくおいしい活動となっており、彼らは教会のコミュニティ・ガーデンで採れた野菜などを使った無料の食品保存教室を毎月開催している。

「私たちは与えられたものを良き管理者として大切にし、他の人々と分かち合いたいと思っています。彼らもまた、良き管理者になれるのです。」と聖テモテ教会の主任牧師であるキャシー・マハンナ師は言う。「私たちは食物を育て、食べます。すぐに食べきれない分は保存し、食べきれなかった分は堆肥にして庭に戻します。これは自己完結的で、輸送を一切必要としない、完全な循環型奉仕活動なのです。」

**聖** テモテ教会による「友人と共に食品を保存する」プログラムは2024年6月に開始され、週1回の会合で、季節に応じて適切な栽培品種や植物品種を使用して、ピクルス(漬ける技法)、さまざまな種類の缶詰、発酵、乾燥など、食品保存の技術を教えている。

「私たちが教示するのは、すべて季節に合わせた食品保存技術です。イチゴの季節にはイチゴ

ジャムのクラス、6月のキュウリの季節にはピクルス作りのクラスがあります。」とリーダーの1人は述べ、クラスの参加者には多くのメリットがあるとし、「生徒たちは、人々や果樹園とつながりを持ち、無料で食料を調達したり、コミュニティ・ガーデンで食料を受け取ったり、収穫したものを保存する方法を学ぶことができます。」と付け加えた。

データによると、カリフォルニア州住民の12.6%が食糧不安を経験している。食品保存技術は、栄養価を維持しながら食品の保存期間を延ばし、年間を通じて食糧へのアクセスを確保し、食品廃棄物を削減することで、食糧不安を軽減するのに役立つ。

材料はすべて用意されており、事前申し込みは不要。クラスの平均人数は20人で、子どもたちも数名参加している。

聖テモテ教会の庭には、コミュニティ・ガーデンとコミュニティ・コンポスト(堆肥を作る)センターがある。ガーデンで収穫された作物の多くは食品保存教室で使用され、残りは困っている人々に寄付されている。





### 原発のない世界を求める週間 2025

6月8日(日)～6月14日(土)



核といのちは共存できない

## 戦後80年 特別講演会

東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故から14年が経ちました。多くの人の生活や生業を奪った事故は、今も収束の見通しがたないまま地域の破壊と分析を積み続け、人々の健康と安全を脅かしています。また、世界では核兵器の脅威が増しています。原発と核兵器は根本的には同じものです。

戦後から80年の今年、「原発のない世界を求める週間」の企画は原発と核兵器をともに考える特別講演会を開催します。会場での参加と、同時配信されるYouTube視聴、どちらでも参加可能、申し込みは不要です。どなた様も響ってご参加ください。

6月14日(土) 14:00～16:00

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会

(YouTube 配信、要約筆記も予定)

入場無料・申込不要です。



講師：家島昌志さん

東京都原爆被害者団体協議会(東京会) 代表理事  
日本原水爆被害者団体協議会 代表理事

戦後80年にあたり、核兵器廃絶や脱原発を含めて「核といのちは共存できない」という立場にたち、被団協のノーベル平和賞受賞を受けた意義や歩みなどについて、ご自身の被爆体験や広島・長崎・ビキニの被爆の真相を交えてお話いただきます。

YouTube 配信は 聖アンデレ教会ホームページ

( <https://st-andrew-tokyo.com/> ) の

「礼拝ライブ配信」をクリックすると見ることができます。



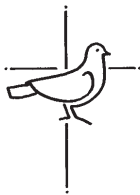
戦後80年～神と人々と世界の声に耳を傾け、平和をつくりだそう！～



原発問題プロジェクトのホームページ  
<https://www.nakk.org/province/no-nuke-project/>



主催：日本聖公会正義と平和委員会 原発問題プロジェクト



## 西日本宣教協働区 2025年 平和礼拝

キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。  
この平和のために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。  
(コロサイの信徒への手紙 第3章16節 聖書協会共同訳)

### 沖縄教区 慰霊の日礼拝

日時：6月22日(日) 午後3時から

場所：三原聖ペテロ聖パウロ教会(教区ホームページから配信)

礼拝後、平和プログラム(17時終了予定)

※沖縄の旅 6/20(金)～22(日)



### 広島復活教会主催 広島平和礼拝

(協賛：日本聖公会神戸教区)

日時：8月6日(水) 午前8時から

5日(火) 午後から被爆証言・平和の祈り

※詳細は広島復活教会のWEBで

### 九州教区 長崎原爆記念礼拝(聖餐式)

日時：8月9日(土) 10時30分 から

場所：長崎聖三一教会(教会フェイスブックから配信)

午後、平和プログラム(被爆証言を聞く予定)

西日本宣教協働区 協働委員会



管区事務所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

日本聖公会  
NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yaraicho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

日本カトリック司教協議会 御中

+主の平安をお祈りします。

教皇フランシスコのご逝去の報に接し、日本カトリック司教協議会の皆さま方を始め、聖職、信徒の皆さまの上に、主のお慰めが与えられますように、お祈りいたします。

教皇フランシスコは、世界中の人々の平和と人権を大切にされ、その明確なリーダーシップに日本聖公会主教会からも心から感謝申し上げます。

「仕えるもの」になり、仕えることに徹するという教皇の祈りを、日本聖公会も大切にして歩んでいきたいと願っています。

教皇フランシスコのご逝去は残念でありませんが、魂の平安をお祈りいたします。

2025年4月23日

日本聖公会 主教会一同  
首座主教 ダビデ上原榮正



管区事務所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

日本聖公会  
NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yaraicho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

日本カトリック司教団の皆さま

主の平安をお祈りいたします。

この度は、カトリック教会の第267代教皇として、ロバート・フランシス・ブレヴオスト司教が選出されましたこと、お祝い申し上げます。

また来る5月18日の主日には就任式のミサが行われますこと、心よりお喜び申し上げます。

教皇レオ十四世は初めての会見で、「戦争を拒絶しよう」と訴えられました。世界平和を追求する心強いお言葉でした。感動でした。

日本聖公会は1955年の宣教協議会より、「わたしたちを平和の器としてください。」と祈ってまいりました。これからも、カトリック教会の皆さまと共に世界平和のため、神さまのご栄光のために、宣教に務めたいと願っております。

教皇レオ十四世のご健康と心の平和とカトリック教会のお働きの上に、神さまの祝福が豊かにありますようにお祈りします。

2025年5月16日

日本聖公会 主教会一同

首座主教 ダビデ 上原榮正



—The Anglican Church in Japan—

—The Anglican Church in Japan—

戦後80年～神と人々と世界の声に耳を傾け、平和をつくりだそう!～

# 沖縄週間

沖縄週間は日本聖公会全教区・教会が沖縄の現実に思いを寄せ、わたしたち自身が主の平和を求めて祈ることをその目的とします。

2025年6月22日(日)  
～28日(土)

ぬち たから  
命どう宝

～戦後80年、なぜ沖縄へ～

キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和のために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。

コロサイの信徒への手紙  
第3章15節

「沖縄の旅」の実施期間  
6月20日(金)～22日(日)

申し込み  
QRコード



主催：日本聖公会正義と平和委員会・日本聖公会沖縄教区

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nskkn.org 広報主事(鈴木 一)宛て